

## 今日のみことば

### □ 10月1日(日) 出エジプト 31章

ここには安息日のしるしと、あかしの板について記している神と彼らとの関係を記す特別のしるしとされ、イスラエルはたの国民から区別された。

### □ 10月2日(月) 出エジプト 32章

イスラエルの民は金の子牛を作って偶像礼拝の罪を犯した。神は偶像礼拝を最も嫌われる。神から離れた人間は、手近な見える確かさを求めるが、本当の確かさは生ける神だけである。

### □ 10月3日(火) 出エジプト 33章

神がご自身の約束を撤回されることはされない。しかしイスラエルの民は神の臨在を失った。この危機に際しモーセは民のためにとりなしをし、神の応答に励まされ主の顕現を祈った。

### □ 10月4日(水) 出エジプト 34章

モーセはシナイ山に登った。律法の石板を持ち、神は最初の十誡と同じものを与えられた。モーセが律法の板二枚を持って山を下りたときモーセの顔は輝いていた。

### □ 10月5日(木) 出エジプト 35章

ここからの章は25-31章の反復です。これは彼らにとって、モーセを通して与えられた幕屋建設の神命が、一点一画間違いのないものであることを証明するものでした。

### □ 10月6日(金) 出エジプト 36章

神の働きのためにすべての者が奉仕しなければならない。自発的なささげ物が豊かに与えられた。神の働きは物量の豊富さではなく、その根底にある信仰こそ肝要です。

### □ 10月7日(土) 出エジプト 37章

ここには神礼拝に必要なものが事細かに規定されている。私たちには驚異です。しかし旧約時代は神礼拝に、これほどの心配りをしてきたことは、私たちはしっかり学ばねばならない。

---

ろ ぼ No. 183  
2017年 10月 1日  
日本バプテリスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

詩篇 8:5

人とは何者なのか、あなたがこれを心に留めるとは。人の子とは何者なのか、あなたがこれを顧みるとは。

詩人ダビデは、「主よ、我らの主よ。御名は全地でいかに力強いことか」と歌います。私たちは心から神のご栄光を讃えるのです。その神が私たちを造って下さいました。神には確かな意図がありました。私たちはどれほど神の思いを受け止めているのでしょうか。

ダビデはさらに「人とは何者なのか。あなたがこれを心に留めるとは」と歌います。私たちは神に創造されました。「神はご自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は祝福して言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥地の上を這う生き物すべてを支配せよ。』」(創世記1:27-28)との言葉をしっかりと聞く者です。そ

の私たちは、今どこにいると言うのでしょうか。私はモーセが神さまから召されて立つとき、「民からあなたの名を問われたとき何と答える」と問うと、神は「わたしはある」と答えられた神の言葉を思い出しています。

私たちは「あなたは何者」と問われて、どう答えるのでしょうか。ダビデは造られたすばらしい天と地を見て、神さまのご栄光を讃えました。そして神はこの私たちを創造されて、その造られたものを治めさせられたのでした。ダビデはそこで自らを見つめたではありませんか。「人の子とは何者なのか。あなたがこれを顧みられるとは。」と言います。私たちは胸を張っ

て「これが私だ」と言える私がそこにいますか。「彼らは皆そむき、みなひとしく墮落した。善を行う者はない、ひとりもない」(詩篇53:3)と言うのです。「あなたは人間を、神の僅かに足りない者とされ／栄光と誉れの冠を戴かせ」られました。その私たちはどこの行ったのですか。

「われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かっていった。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた」(イザヤ53:6)と言われるとおりで。神が与えられた栄光と誉れを、私たちは自ら放り投げたのです。自覚していないとは言わせません。私はいつも聖書のみ言葉を神は、教会の中で解き明かされることで満足してはおられない。これは今私たちが生きている世界で語られるべき言葉とされていることを心に留めさせていただくのです。今世界で、私たちの周辺で何が起きているかは承知です。そこで神が私たちを創造された意図が行われていますか。「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっている」(ロマ3:23)と言われるとおりで。私たちはまず、罪を悔い改めて、贖われなければ、次に進むことは出来ないのです。

私はダビデこの詩篇を「主よ、我らの主よ／御名は全地でいかに力強いことか」(8:2, 8:10)との言葉で囲みました。神の思いを聞きとります。神は確かに人間を「神はご自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された」のです。最後の最後まで神は、諦めなされないお方です。私たちの罪の贖いのために御子イエスを賜りました。私は混じりけのない思いを込めて「神は愛なり」と宣言するのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

ヨブ記 19:1-29      なおも贖い主を仰ぎ見る

ヨブの苦痛に無言で寄り添っていた友人たちが、神さまに向かって訴えを始めたとき、友人たちは非難の声を上げ、互いの議論が始まりました。

私たちはヨブが受けている苦難をどう受け取っていますか。友人たちはヨブの神との向き合い方に疑問をを投げかけます。私たちもまた同じように自己吟味を迫るのではありませんか。

それに対するヨブの言葉は、私たちには強烈です。友人から家族から、知人から、使用人から、接するすべての人たちから疎まれている。しかし彼の苦悩はそんなことではなかった。なぜ神が自分を苦しめ、自分に敵対されるかでした。見舞いに来た友人も、側にいて何も言うことができませんでした。このような中でさえ、信仰と希望は彼のうちにわき上がってきました彼の正しさを証明してくれるのも神である。ここにあってもお、神の主権をヨブは疑いませんでした。



Read God's Word.